

栗谷ツ遺跡 第61地点

遺跡名	栗谷ツ遺跡
よみがな	くりやついせき
調査地点	第61地点
主な時代	縄文時代中期（約4500年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	富士見市大字水子字北別所5009-6
調査面積	554.84 m ²
調査期間	令和3年8月11日～8月25日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代中期竪穴住居跡1軒、平安時代竪穴住居跡1軒</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、石器、須恵器坏</p> <p>【概要】</p> <p>栗谷ツ遺跡は武蔵野台地縁辺部に立地しています。遺跡南部は柳瀬川から南西に向かって開析された小支谷が入り込み、この小支谷の南側の対岸には北通遺跡が立地しています。</p> <p>これまでの調査により、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、平安時代の集落を中心に遺構や遺物が見つかっており、今回の調査では縄文時代中期の竪穴住居跡と平安時代の竪穴住居跡が検出されました。縄文時代の竪穴住居跡からは残存率の良い縄文土器が正位で出土しており、埋甕の可能性ががあります。</p>



縄文時代中期の竪穴住居跡遺物出土状況



縄文時代中期の石囲炉検出状況



縄文土器出土状況



平安時代の竪穴住居跡完掘状況